



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第15号
令和3年 6月28日

辞書と友達になろう！ ～3年生辞書引き教室～



中村さんとやり取りをしている様子

本校では、子供たちの学習意欲を喚起するために多方面からゲストティーチャーをお呼びしています。ゲストティーチャーをお呼びする最大のメリットは、教員にはない専門的知識・技能が学習でき、キャリア教育にもつながることです。

今回ゲストティーチャーとしてお呼びしたのは、ベネッセコーポレーションの中村さんです。コロナ禍の中、直接来校するのが難しいということで、Web会議システム(Zoom)を使い、5クラス同時に行いました。

Web会議システムは、双方向で言葉のキャッチボールができます。また、他のクラスとも情報を共有できます。

3年生は、国語の学習(情報の整理)で辞書の使い方について学習をします。今の時代、インターネット

で必要な情報が検索できますが、辞書の使い方を理解し、使うことは、情報化社会において必要な情報を収集したり、語彙を豊かにしたりするために必要な「知識や技能」であることには変わりません。私も、常に机の横に辞書を置いており、便利になる相棒となっています。

辞書引き教室では、子供たち一人一人に100枚の付箋を渡し、あらかじめ番号を記入させておきます。はじめは、知っている言葉を調べ、調べた言葉のページに付箋を貼っていきます。調べた言葉の数だけ付箋は減っていくので、子供たちは、もっと調べようという意欲につながりました。たった1枚の付箋ですがその効果は絶大でした。3、4時間目の2コマの授業でしたが、なんと100枚の付箋すべてを使いきった子も出ました。これには、ベネッセの方も大変驚いていました。今後、辞書は、国語の時間だけでなく、社会科や理科などの学習でも活用されていくことでしょう。

小さな発見が大きな未来につながる！

～3年生「ESDめがね」をかけて見てみよう！～

ユネスコスクールとして持続可能な社会の担い手を育てていくためには、子供たち一人一人が、自然や社会に関わる様々な地球規模の課題を自らの課題として捉え、一人一人が自分にできることを考え、実践していく力を身につける必要があります。この力をつけるには、ESDの視点をもって物事を見られるようになることが大前提となります。本校では、ESDの視点を4つのレンズにたとえ「ESDめがね」と称しています。

しかし、3年生にとって様々な地球規模の課題を自らの課題として捉えることは難しいです。そこで、1、2年生で学んだ生活科を基盤に「自分」と「身近な生活」や「今」の中に散らばっているSDGsを発見することから始め、ESDの視点をもてる子供たちを育てています。右の写真は、教室のゴミ箱からリサイクルや海洋汚染などの問題につながっているところです。子供たちの発見がどのようにして大きな未来につながっていくか楽しみです。

